

## 保育者養成におけるピアノ教育についての試み

—学生へのアンケート調査から—

吉村 淳子\*

幼児教育学科

(2012年11月28日受理)

保育者養成におけるピアノ教育について検討するために、保育実習時の音楽活動についてアンケート調査を行った。学生が保育実習の音楽活動で何に困難を感じ、どのような技術を必要としているのかを把握した上で、今後の授業内容および指導法について検討してすることを目的とした。その結果、学生は保育実習の場で「子どもの様子を見ながらピアノを弾くこと」や「ピアノで臨機応変に対応すること」について困難を感じ、さらに弾き歌いのレパートリーを増やしておくことの必要性を感じていることがわかった。

(キーワード) 保育者養成, ピアノ教育, 保育実習, 音楽活動

### 1. はじめに

保育者養成におけるピアノ指導が、保育現場においてより有効に生かされるためにはどのような教材、授業内容が望ましいのだろうか。

保育現場に適応できるピアノの力については、井口太・笠井かほる・宮脇長谷子による一連の研究がある<sup>1)</sup>。井口らは、保育者養成におけるピアノ指導について、対象者により適切な教材を選び、対応し、指導していくことの重要性を主張している。さらに、学生に対して、音楽の表現が生き生きと子どもたちに働きかけられ、動きや遊びに発展できるピアノが弾けること、やさしい曲でも子どもたちと一緒に楽しさを味わいながらピアノが弾けることを望んでいる。

本学に入学してくる学生のピアノ経験は、まったくピアノに触ったことがないという学生から、ベートヴェンやショパンを弾く学生まで多岐にわたっている。その中で、保育技術として最低限のピアノ技術を身につけさせなければならない。ここでいうピアノ技術は、ただ単にピアノが弾けるようになれば良いというものではない。基本的なピアノ技術を基に、保育現場では弾き歌いやこどもの動きに合わせてピアノが弾ける、さらに子どもの豊かな感性を誘導できるピアノ表現力など、臨機応変に対応できるピアノの力が必要なのである。これについて、若菜ら<sup>2)</sup>は、子どもの歌の伴奏や弾き歌いができるためには、子どもの音楽表現・身体表現等を誘導する質的理解を伴った表現力が必要なこと、さらに子どもの歌のレパートリーを増やし、コード伴奏ができることが必要であ

ると述べている。

本学では、今年の入学生 53 人のうち、入学時に全くピアノ経験のない初心者は 20 人、また、幼稚園や小学校時代に数年習っただけという初級者が 17 人となっており、両方を合わせると 37 人で約 7 割もの学生が未経験と未経験に近い状態である。この初心者・初級者の数は徐々に増加の傾向にある。

現在のカリキュラムでは、1 年生で「音楽 I・器楽 I」(必修)「音楽 II・器楽 II」(選択)でピアノの基礎技術を、2 年生で「音楽 II・幼児音楽 I」(選択)「音楽 II・幼児音楽 II」(選択)で「弾き歌い」や「動きに合わせた伴奏」や「簡易伴奏への編曲」など応用編を行う内容となっている。

1 年時、初心者・初級者は「大学ピアノ教本」を統一して使用し、それ以上の学生にはそれぞれ進度に応じた教本を使用し、統一した教本は使用しておらず、各指導教員にまかせている。中級者は、主にソナチネアルバムやソナタアルバムといった教本を使用し、上級者は、少数ではあるがショパンやドビュシー、リストなどの曲を練習している。

これらの学生が習得したピアノ技術が、実際の保育の現場ではどの程度生かされているのだろうか。保育現場で行われる音楽活動を考えた時、ただピアノが上手に弾けるだけでは対応できない場面が多いであろうことは、容易に想像できる。

そこで、実際に学生が保育実習に出た時、どのような音楽活動を行い、戸惑った場面でのどのような対応をしているのか。また何に困難を感じ、困っているのかを把握

\*連絡先: 吉村淳子 新見公立短期大学 幼児教育学科 718-8585 新見市西方1263-2

した上で、今後の授業内容および教材について、再検討をしていくための資料として学生に対してアンケート調査を行った。

## 2. 研究方法

調査対象：幼児教育学科2年時保育実習Ⅱの選択者37人

調査日時：2012年8月2日

調査方法：質問紙によるアンケート調査

倫理的配慮：対象者に研究の趣旨と研究以外では使用しないことを説明し了解を得た。

## 3. 結果と考察

以下は、6月に行われた保育実習Ⅱを選択した学生37人に対して行った音楽活動アンケート調査の結果である。

「実習で行った音楽活動について」の結果は表1に示した。

表1 実習で行った音楽活動

	人数	%
ア. 歌唱活動	23	37.7
イ. リズム遊び	5	8.2
ウ. 楽器合奏	2	3.3
エ. 音楽に合わせて動く	23	37.7
オ. しなかった	3	4.9
カ. 手づくり楽器	2	3.3
キ. その他	3	4.9
合計	61	100

最も多かったのは、「歌唱活動」と「音楽に合わせて動く」という活動で、ともに23人(37.7%)となっていた。この2項目が圧倒的に多くっており、それ以外は少数であった。それ以外の活動では「リズム遊び」は5人(8.2%)、「楽器合奏」は2人(3.3%)、などであった。また、音楽活動を「しなかった」が3人(4.9%)という結果であった。

保育実習で学生が行う音楽活動は、「歌唱活動」と「音楽に合わせて動く」という活動がほとんどであることがわかった。

音楽活動で学生が使用した曲目については、資料1に示した通りである。

「歌唱活動」で使用した曲目は「しゃぼんだま」「みずあそび」をはじめ「ほくのミックスジュース」や「おべけなんてないさ」など季節を反映した曲があげられていた。それ

以外の曲では、実にさまざまな曲目が使用されていた。これは、自分で選曲して使用した曲もあるが、実習中に園で使われていたものを学生が使用した曲も多い。

保育園で使用されていた曲目は資料2に示した。ここでは、「ほくのミックスジュース」や「みずあそび」「南の島のハメハメハ大王」「うみ」「おべけなんてないさ」などが多く使用されていた。さらに「キラキラ星」や「しゃぼんだま」「ドレミの魔法」なども多く使用されていた。

これらの結果から、保育園では子どもの歌の定番といえるものが、主に使われていることがわかる。学生に弾き歌いの指導をする場合、これらは基本となる曲目としてマスターさせておく必要があることが示唆された。

次に、実習園から事前に練習してくるよう指定された曲目があったかという質問の結果を表2に示した。これは「ある」が10人(27%)「ない」が27人で(73%)となっており、約7割の学生が実習園から事前の指示を受けていることがわかった。

表2 事前に練習してくるよう指定された曲の有無

	人数	%
ア. ある	10	27
イ. ない	27	73
合計	37	100

次に「音楽活動の中で特に難しいと感じたこと」という質問について表3に示した。

最も多かったのは、「子どもの様子を見ながら弾く」が25人(20.8%)、次いで「うたを歌うこと」が20人(18.3%)と多くなっていた。次に多いのが「子どもに合わせて弾く」と「ピアノを弾く」で共に15人(12.5%)であった。

表3 音楽活動で特に難しいと感じたこと

	人数	%
ア. ピアノを弾く	15	12.5
イ. 歌をうたう	22	18.3
ウ. 子どもの様子を見ながら弾く	25	20.8
エ. 間違えないように弾く	10	8.4
オ. 子どもに合わせて弾く	15	12.5
カ. 音楽的な表現	3	2.5
キ. 楽譜のない曲を弾く	4	3.3
ク. 楽器の使い方	1	0.8
ケ. 楽器遊び	1	0.8
コ. リズム遊び	4	3.3
サ. 年齢に合った活動	10	8.4
シ. 年齢にあった選曲	10	8.4
ス. その他	0	0
合計	120	100

子どもの様子を見ながら弾くということは、ピアノに向かって黙々と弾くのではなく、子どもたちの顔を見渡ししながら、その様子に合わせて弾くということである。

これは、学内の授業ではなかなか実践できないことであり、身につけることは容易ではない。しかし、実際の保育現場では最も必要なことでもある。子どもを見ながら弾くためには、十分な演奏技術と曲目を熟知しておくことが必要になってくる。その上でさらに子どもの様子を見ながら弾くという配慮が求められる。

これは、ピアノの進捗が進んでいることとは、必ずしも同じではない。モーツァルトやショパンが弾けるからといって、その学生にできるかといえばそうではない。ピアノが弾けるようになることとは異なる要素を含んでおり、現段階のカリキュラムでは困難な問題といえる。

「うたを歌うこと」が難しいという回答が多いが、これについては、普段は練習室で歌の練習しており、ひとりでは歌えても子どもを前にして大きな声で子どもたちに伝わるように歌をことに難しさを感じているといえよう。さらに実習中ということで、保育園の先生同席となれば、なおさら緊張し、声も出にくくなり、普段通りに歌うことはなかなか困難であることが考えられる。

次に「子どもに合わせて弾く」であるが、これも前述の「子どもの様子を見ながら弾く」と共通するものである。この場合は、さらに積極的に子どもの状況に合わせるということも含まれてくる。子どものテンポに合わせてたり、表現にあわせてたりしながら弾くことが求められる。先生が勝手に弾いては子どもは「置いてきぼり」になり、有効な音楽活動はできない。子どもの表現を尊重し、さらに引き出すことができ、はじめて子どもが音楽を楽しんでいるのである。

学生には、自分自身がピアノを弾くことで精一杯であり、子どもに合わせて臨機応変に対応することは容易ではない。また、学内の授業では習得することの難しい内容でもある。現場で慣れていくことによって身に付く技術ではあるが、2年間の間に少しでも対応できるように学習内容を検討していくことも必要なことである。

また、「ピアノを弾く」ことが難しかったことについては、先の「うたを歌うことが難しかった」と同様のことが考えられる。一人で弾いているとできることが、他の人がいるとできなくなるということである。それがたとえ子どもであっても、多くの人の前でピアノを弾くということは、大変なことである。一般的にいう「あがる」という状況で、練習通りには弾けないのである。

次に「実際の音楽活動をするために必要だと思うこと」という質問の結果は表4に示した。

ここで最も多かったのは、「子どもを見ながら弾く」で28人(22.4%)であった。これは、実際に実習で難しいと感じたことであり、必要性を実感したためであろう。次

表4 音楽活動をするために必要と思うこと

	人数	%
ア.ピアノが上手に弾ける	2	1.6
イ.ピアノで臨機応変に対応する	26	20.8
ウ.子どもを見ながら弾く	28	22.4
エ.子どもに合わせて自由に弾ける	13	10.4
オ.楽譜がなくても弾ける曲のレパートリー	12	9.6
カ.大きな声で歌える	10	8
キ.音楽の表現力	4	3.2
ク.弾き歌いのレパートリー	22	17.6
ケ.弾き歌いができる	7	5.6
コ.楽器の扱い方	1	0.8
サ.その他	0	0
合計	125	100

に多かったのは「ピアノで臨機応変に対応する」の26人(20.8%)であった。これも同様に状況に合わせて対応していくことの難しさを感じることで必要性を実感したためと思われる。

また、「弾き歌いのレパートリーが多いこと」が22人(17.6%)となっている。実習中に事前に指定された曲のみでは対応できないこともあり、やはりある程度自由に弾き歌いできる曲目を持っている必要があると実感した結果であろう。

次に「音楽活動に関して困ったこと」の結果を表5に示した。

表5 音楽活動に関して困ったこと

	人数	
自分の問題	子どもの様子を見ながら弾くこと	2
	ピアノが弾けなかった	2
	弾き歌いができなかった	1
	知らない曲があった	1
	音楽にあわせた動きを考えること	1
	1つの曲にいろいろな変化をつけること	1
	声が届かない	1
	弾ける曲のレパートリーが少ないこと	1
	練習する時間がなかった	1
	準備していなかった曲をリクエストされた	1
	なかなか曲を覚えられなかった	1
	途中で止まってしまうこと	1
	楽譜のない曲を弾いてといわれた	1
	歌詞はさみ	1
	関指す導るに	歌を歌うことがすきではない子どもをどう導くか
新しい曲を教えるとき歌詞の教え方		1
子どもが興味を示してくれない		1

これは、自由記述で書いてもらったものである。ここでは、学生自身の問題と指導に関する問題があると思われる。学生自身の問題としては、「子どもの様子を見ながら弾く」や「ピアノが弾けなかった」や「途中で止まってしまう」などがあげられていた。これらは、各自の努力によって改善できるものであるが、他方で指導方法に関するものとして「うたを歌うことが好きでない子どもをどう導くか」や「新しい曲を教えるときの歌詞の教え方」また「子どもが興味を示してくれない」などが示された。これらに関しては、特に授業で教えていないものであり、このような問題に直面することがあるのであれば、今後検討していく必要がある。

次に「実習前にしておけばよかったと思ったこと」の結果を表6に示した。

表6 実習前にしておけばよかったと思ったこと

	人数
弾き歌いの練習	8
ピアノの練習をしっかりとしておくこと	8
レパートリーを増やしておくこと	4
どの曲でも弾けるようにしておくこと	1
課題曲の練習	1
子どもの好きそうな曲を選んでおくこと	1
発声練習のやりかた	1
歌の歌詞を2番まで完全に覚える	1
CDをもっと準備する	1
選曲すること	1
余裕を持って弾けるようアレンジしておく	1
歌う前の合図を言えること	1
ピアノの鍵盤を見ないでひけるように	1

ここでは、「弾き歌いの練習」と「ピアノの練習をしっかりとする」そして「レパートリーを増やしておく」が多かった。これらは、幼児音楽Ⅰの授業で十分に伝え、実施していることであるが、その必要性を改めて認識させられる結果であった。

以上のことから、学生が実習という形で現場に出た時

に、ピアノを弾くことに加えて、「こどもの様子を見ながら弾く」とか「こどもに合わせて弾く」ことに困難を感じ、難しいと感じていた。また、いつでも対応できる曲目のレパートリーが少ないことを実感したようである。これらについては、今までも授業の中で指導してきているが、十分ではないということが示されたので、さらに充実させていきたい。

また、保育現場で使用されている子どもの歌の種類について、定番と言われる曲目も多く使われているが、新しい曲、また、保育園独自の曲など、さまざまな曲が使用されていた。在学中にこれらすべてに対応していくことは困難であるが、なるべく幅広い楽曲に触れさせることの必要性がある。

また、少数ではあったが、新しい曲を教える場合にどのように歌詞を教えていくのか、また、歌に興味を示さない子どもをどのように指導するのかなど、こどもの指導に関する項目があがっていた。これらについては、授業の中では十分な指導はしていないが、今後、子どもに対する指導法なども教えていく必要があるだろう。

さらに、学生は保育実習という経験を通して、保育士という専門職に就く場合に、ただ単にピアノが弾けるといっただけでは対応することができないことを学び、本当に必要な音楽的な技術や知識を再認識したことがうかがえた。

これらの結果は、今後のピアノ指導の教材や授業内容について再検討していくための材料を提供してくれた。

## 文献

- 1) 井口太, 笠井かほる, 宮脇長谷子: 保育者養成におけるピアノ指導に関する研究Ⅰ～Ⅷ, 『日本保育学会第47回～第50回, 第54回大会研究論文集』(1994年～1997年, 2001年)
- 2) 若菜直美, 高橋由季子, 西村範子, 磯田由紀子, 酒井由美子: 短期大学保育課における初学者・初心者のためのピアノ指導法の改善—専任講師・非常勤講師の協同・協奏の試み—, 文化女子大学室蘭短期大学紀要, 29, 5-22, 2006

保育者養成におけるピアノ教育についての試み

資料1 音楽活動で使用した曲目

ア. 歌唱活動	回答数	イ. リズム遊び	回答数	ウ. 楽器活動	回答数	エ. 音楽に合わせて動く	回答数
しゃぼんだま	4	アイアイ	2	うみ	2	サンサン体操	3
みずあそび	4	山の音楽家	1	ドレミのまほう	2	にんにんにんたま音頭	3
ぼくのミックスジュース	3	ちょうちょ	1	桃太郎	2	ラーメン体操	2
おばけなんてないさ	3	ぶんぶんぶん	1	金太郎	2	ドラドラどらえもん音頭	2
きらきらぼし	2	ありさんのおつかい	1			アンパンマン体操	2
ドレミのまほう	2	忍者ってなんじゃ	1			のねずみ	2
にじ	2	大きな栗の木の下で	1			アブラハムの子	1
ふしぎなポケット	2	おもちゃのチャチャチャ	1			元気おんど	1
南の島のハメハメハ大王	2	グッパ体操	1			桃太郎	1
うみ	2					金太郎	1
アイスクリームのうた	1					おおかみさん	1
クラスのうち	1					にんじゃ	1
だからあめふり	1					ゴリラ	1
はしれ超特急	1					アイアイ	1
たなばた	1					オリジナルの曲	1
ぼくらのロコモーション	1					キラキラ星	1
とんでったバナナ	1					かもつれっしや	1
畑のポルカ	1					イルカはザンブリコ	1
ハッピーチルドレン	1					カエルのうた	1
てをたたきましょ	1					しままグルグル	1
むすんでひらいて	1					うさぎのうた	1
ロンドン橋おちる	1					ありさんのおつかい	1
しりとりうた	1					おばけなんてないさ	1
おかえりのうた	1					ハッピーバースデー	1
手のひらを太陽に	1					線路は続くよどこまでも	1
うちゅうせんのうた	1					なっちゃんたロケット	1
カエルのうた	1					魚がはねて	1
おかえりのうた	1					おやつを食べよう	1
イルカはザンブリコ	1					エビカニクン	1
しままグルグル	1					ぐるぐるどっかーん	1
きみのなまえ	1					山の音楽家	1
あいうえあにぎり	1					しあわせなら手をたたこう	1
かぜはともだち	1					あんたがたどこさ	1
せみ	1					ピクニックの手遊び	1
桃太郎	1					ディズニーの手遊び	1
たんじょうび	1						
ありさんのおはなし	1						
そうだったらいいのにな	1						
世界中のこどもたち	1						
アイアイ	1						
うたえバンバン	1						
ホホホ	1						
さんぽ	1						
森のくまさん	1						
ひげじいさん	1						
アンパンマン	1						
天使のパンツ	1						

## 資料2 保育園で使われていた曲

	回答数		回答数
ぼくのミックスジュース	6	大型バスにのってます	1
みずあそび	5	ちきゅうはみんなのものなんだ	1
南の島のハマハマハ大王	5	すいか	1
うみ	5	イルカはザンブラコ	1
おまけなんてないさ	5	トマト	1
キラキラ星	4	しましまグルグル	1
おかえりのうた	4	あいうえおにぎり	1
しゃぼんだま	4	きみのなまえ	1
ドレミのまほう	4	ドレミのうた	1
カエルのうた	3	ホホホ	1
とんでったバナナ	3	ハレード	1
手のひらを太陽に	3	おおかみさん	1
桃太郎	3	ピクニックの手遊び	1
金太郎	3	いろは音頭	1
アイスクリームのうた	3	子ども大漁節	1
魚がはねて(手あそび)	2	誕生日	1
ラーメン体操	2	おはようのうた	1
しゃぼんだま	2	ディズニーの手遊び	1
おかたづけ	2	おとけいさんのうた	1
おやつをたべよう	2	アブラハムの子	1
にじ	2	うーんば	1
ハッピーチルドレン	2	ぐるぐるドカーン	1
アイアイ	2	メリーゴーランド	1
バスごっこ	2	ゆかいな牧場	1
にんじゃ	1	ワクワク体操	1
ドロップスのうた	1	サクラソボ体操	1
たなばた	1	じゃがいもじゃーが	1
畑のポルカ	1	ハレード	1
ぼぐらのロコモーション	1	うたえバンバン	1
くじらのバス	1	どんな色が好き	1
むすんでひらいて	1	せみ	1
エビカニクス	1	3匹のこぶた(手あそび)	1
まあくなあれ	1	ちょうちょ	1
ほおずきばあさん	1	ほたるこい	1
川のきし	1	いっぽんばしにほんばし(手あそび)	1
あめ	1	グッバー体操	1
だからあめふり	1	のねずみ	1
天使のパンツ	1	大きな栗の木の下で	1
はしれ超特急	1	アンパンマン	1
ドラえもん音頭	1	忍者の曲	1
にんにんにんたま音頭	1	ぶたくんのさんぽ	1
うちゅうせんのうた	1	パン屋さん	1
ともだちはいいもんだ	1	なっちゃんた	1
チャンス	1	ロケット	1
サンサン体操	1	ゴリラ	1
あめふりまのこ	1	忍者ってなんじゃ	1